

事業名

学校図書館蔵書管理システム構築事業

事業実施体制

名称	役割
稲敷市教育政策課	事業計画の立案、報告書作成をはじめとする事業全般の管理、学校図書館蔵書管理システムの利活用
市内小中学校	学校図書館蔵書管理システムの利活用
システム事業者	学校図書館蔵書管理システムの提供

事業費

	経費項目	金額（千円）
R7	学校図書館システム ノートパソコン	1,980
	学校図書館システム ノートパソコン保守料	222
	学校図書館システム プリンタ	528
	学校図書館システム プリンタ保守料	446
	学校図書館システム バーコードリーダー	278
	プリンタ用USBケーブル	20
	電源タップ	53
	学校図書館システム 利用料	2,376
	ノートパソコン用 セキュリティソフト	73
	ノートパソコン用 Office（永続版）	344
	学校図書館システム バーコードラベル	1,650
	学校図書館システム バーコードラベル版下代	9
	学校図書館システム 設定費	924
	学校図書館システム 講習会	165
		合計
R8		
	合計	
R9		
	合計	

KPIの達成状況

KPI①		単位	年度	目標値	実績
児童生徒の1人当たりの貸出冊数		冊	R7	32	14
		冊	R8	33	
		冊	R9	34	
達成・未達成の理由	導入作業のため学校図書館の開館日数が減り、また学校図書館蔵書管理システムのサービス開始時期も当初予定より遅れたため、システムを使った貸出を実施した期間も短くなり貸出冊数が目標までに至らなかった。				
今後の取組方針	学校にて発行している「図書だより」などで定期的に周知していく。また、児童生徒に対するアンケート調査を実施し習熟度を把握するとともに、教務主任会で事業評価を実施し、外部評価として、教育委員会の点検・評価報告書の中で事業評価を実施したいと考えている。				

KPI②		単位	年度	目標値	実績
検索システムを利用した児童生徒の割合		%	R7	50	未計測
		%	R8	65	
		%	R9	65	
達成・未達成の理由	学校図書館蔵書管理システムのサービス開始時期も当初予定より遅れたため、システムを使った貸出を実施するのが2026年の3月となってしまったため。				
今後の取組方針	学校にて発行している「図書だより」などで定期的に周知していく。システムの利活用方法について広く周知していくことにより、児童生徒の読書推進や、授業への活用、保護者の当該事業への情報や、取組の目的を広く、正しく理解していただき、より積極的にシステムを利用できる環境を整えていく。				

KPI③		単位	年度	目標値	実績
児童生徒に対するアンケート結果の満足度		%	R7	65.8	未計測
		%	R8	70	
		%	R9	75	
達成・未達成の理由	学校図書館蔵書管理システムのサービス開始時期も当初予定より遅れたため、システムを使った貸出を実施するのが2026年の3月となってしまったため。				
今後の取組方針	児童生徒がシステム導入初期の一時的な関心の高まりだけでなく、継続的に利用してもらえるようアンケート調査を実施し、満足度や要望を抽出することで関係部課と連携しながらPDCAサイクルが回せる体制の構築を目指していく。				